

BillOne  
powered by Sansan

# 経理の働き方白書 2026

2112人に聞いた  
経理のリアルな業務実態と年収



# 経理の働き方白書とは

経理部門は、企業経営を支える重要な役割を果たしながらも、その働き方や業務内容には多くの課題が存在しています。本白書は、経理担当者の「働き方・業務内容・年収」の実態に焦点を当てて実施した調査の結果をまとめたものです。

調査2年目となる今回は、昨年に引き続き、どのような業務に時間を要しているかや、何を付加価値が高い重要な業務と捉えているかなど、経理の働き方の参考となり得るデータを収録。さらに、本年からは、AI活用が叫ばれる社会における、経理業務への対話型AIの活用実態についての問いを設け、調査しました。

経理の働き方をはじめ、対話型AIの活用、今後のキャリアなどについて、一定の示唆を示すものとなるでしょう。

## 調査概要

- [ 調査名 ] 経理の働き方に関する実態調査
- [ 調査対象 ] 全国在住の男女18歳～69歳
- 職業：会社員     職種：財務／会計／経理
- 役職：一般社員／課長クラス／部長クラス
- [ 調査数 ] 2112名

※本調査における「対話型AI」とは、ChatGPT、Copilot、Geminiなどの「対話型の生成AI・AIエージェント」のほか、業務システムやSaaSに組み込まれ、業務の自動化・効率化・判断支援を行う対話型のAI機能を指します。

# 目次

## 第 1 章 経理の実態

働き方	P. 4
業務内容	P. 5
AIの活用状況	P. 6
AIを活用している業務の内容	P. 7
経理業務における対話型AI活用の実態	P. 8
AI技術に対する考え	P. 9
年収(年代別)	P. 10
年収(経験年数別)	P. 11
年収(役職別)	P. 12

## 第 2 章 経理の理想と現実

経理部門として付加価値の高い重要な業務	P. 14
付加価値の高い重要な業務への取り組み	P. 15
付加価値が高いと考える業務に対する時間の捻出	P. 16
刊行に寄せて	P. 17

# 第 1 章

## 経理の実態

働き方

業務内容

AIの活用状況

AIを活用している業務の内容

経理業務における対話型AI活用の実態

AI技術に対する考え

年収(年代別)

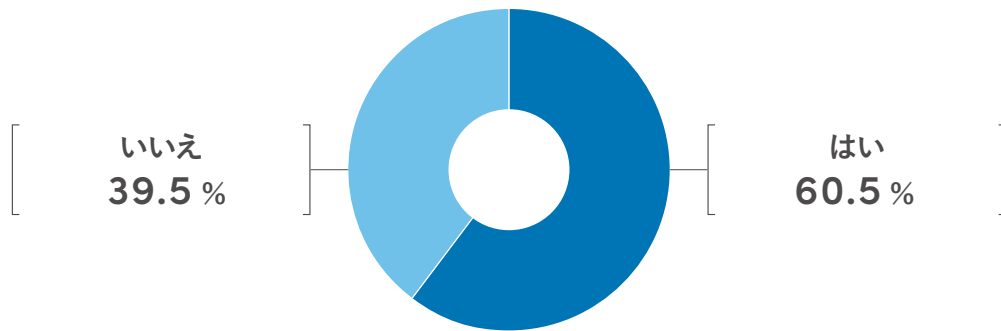
年収(経験年数別)

年収(役職別)

## 働き方

図表 1-1

Q：あなたに合った柔軟な働き方ができていますか。



n=2112

約6割の人が、柔軟な働き方ができていると回答。一方、約4割の人が柔軟な働き方ができていないと回答した。

図表 1-2

Q：柔軟な働き方ができていない原因は何ですか。

決算期や月次決算といった特定の時期に業務が集中し、業務負荷が極端に偏っている

50.2%

人員が足りず、常に残業を強いられる状況が続いている

33.8%

業務のデジタル化が進んでおらず、アナログな作業が中心であるため、場所や時間に縛られない働き方が難しい

32.7%

フレックスタイムやリモートワークなどの制度が未整備であり、従業員の働き方に関する明確なガイドラインが存在しない

32.5%

情報漏えいなどのセキュリティリスクに対する懸念があり、リモートワークや場所を選ばない働き方が制限されている

13.3%

その他

11.3%

n=835 複数選択可

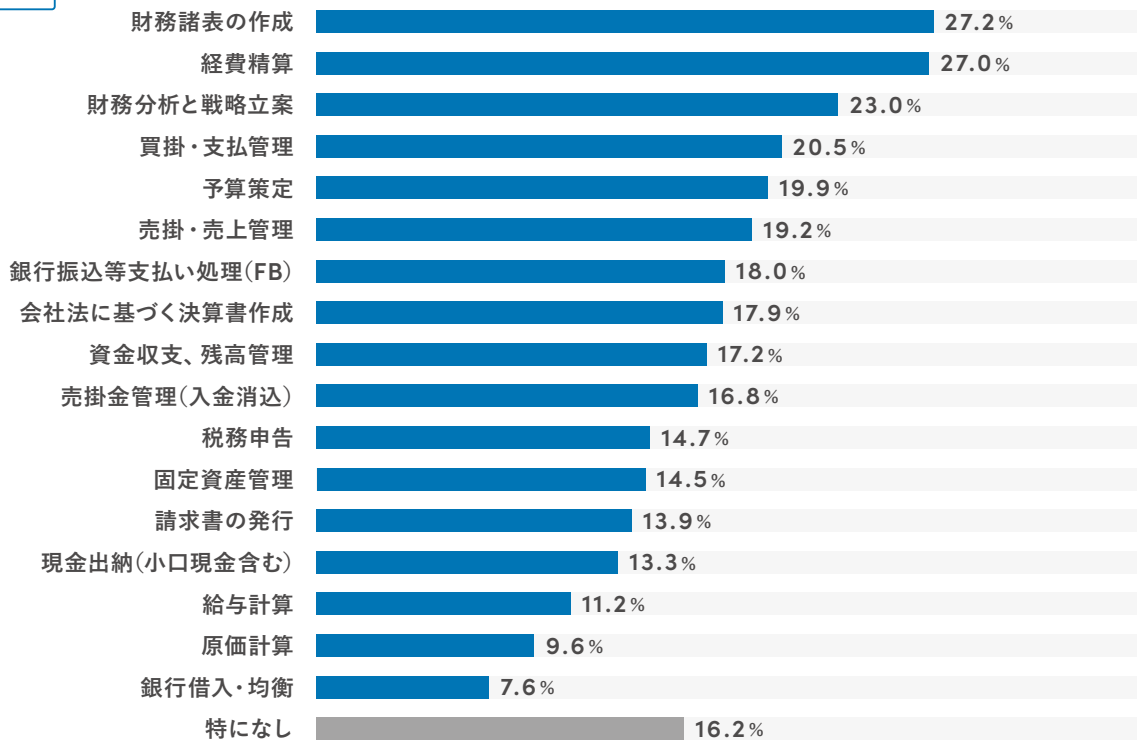
「柔軟な働き方ができていない」と回答した人のうち、半数以上の人々が、決算期や月次決算など、特定時期に業務が集中していることが原因だと選択した。

# 業務内容

図表 1-3

Q：あなたが特に時間を要している業務内容は何ですか。

全体



n=2112 複数選択可

役職別

(全17項目中の上位3項目)

※「特になし」を除いて算出

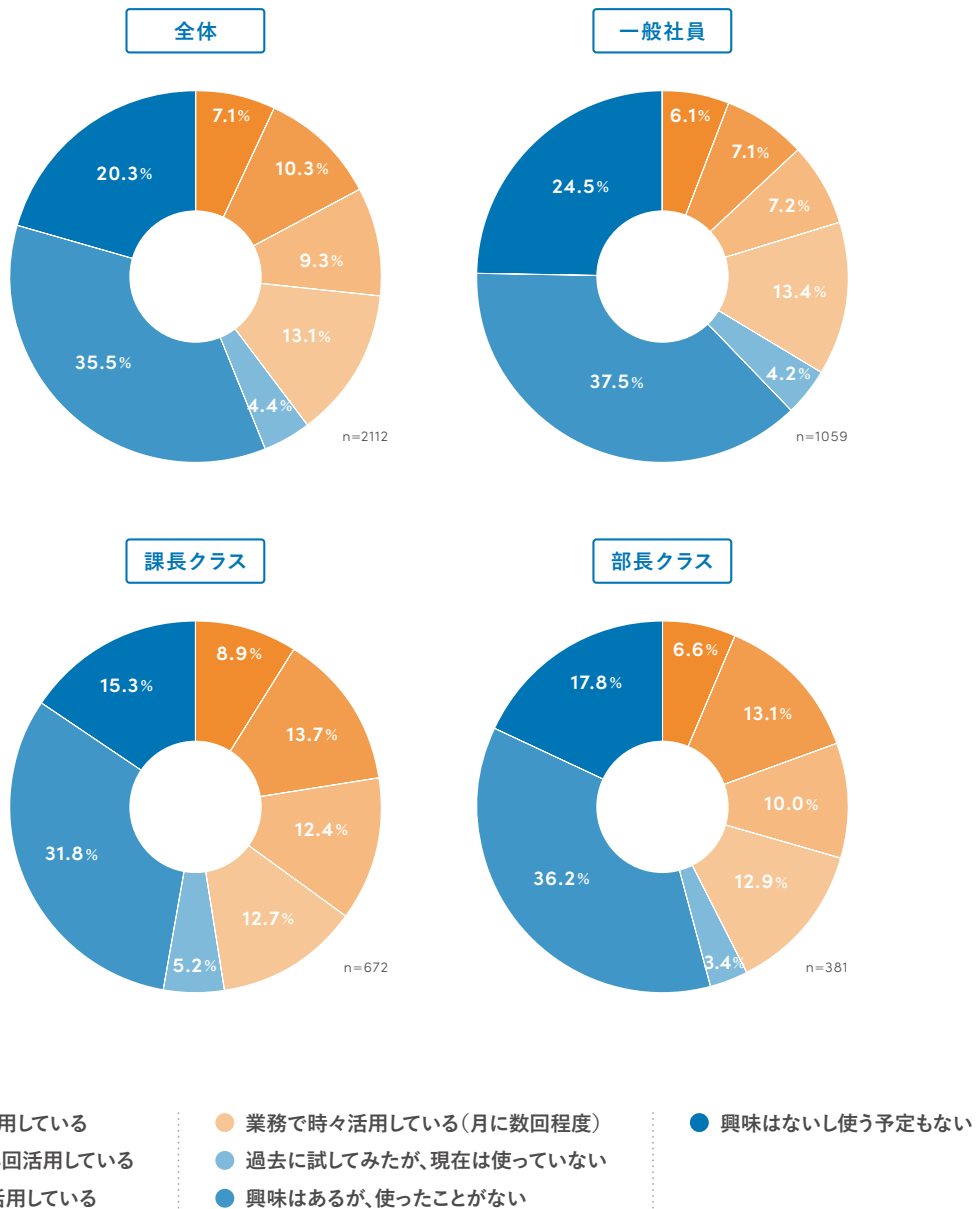
	[ 一般社員 ]	[ 課長クラス ]	[ 部長クラス ]
1位	経費精算 ..... 32.1%	財務諸表の作成 ..... 31.5%	財務分析と戦略立案 ..... 37.8%
2位	財務諸表の作成 ..... 23.7%	財務分析と戦略立案 ..... 29.2%	財務諸表の作成 ..... 29.4%
3位	買掛・支払管理 ..... 23.0%	予算策定 ..... 25.6%	予算策定 ..... 27.0%
	n=1059	n=672	n=381

「財務諸表の作成」「経費精算」「財務分析と戦略立案」が時間を要する業務の上位3項目となっている。一般社員と役職者では時間を要する業務の内容が異なっているが、「財務諸表の作成」はどの役職でも上位に位置している。

## AIの活用状況

図表 1-4

Q：経理業務において、対話型AIをどれくらい活用していますか。

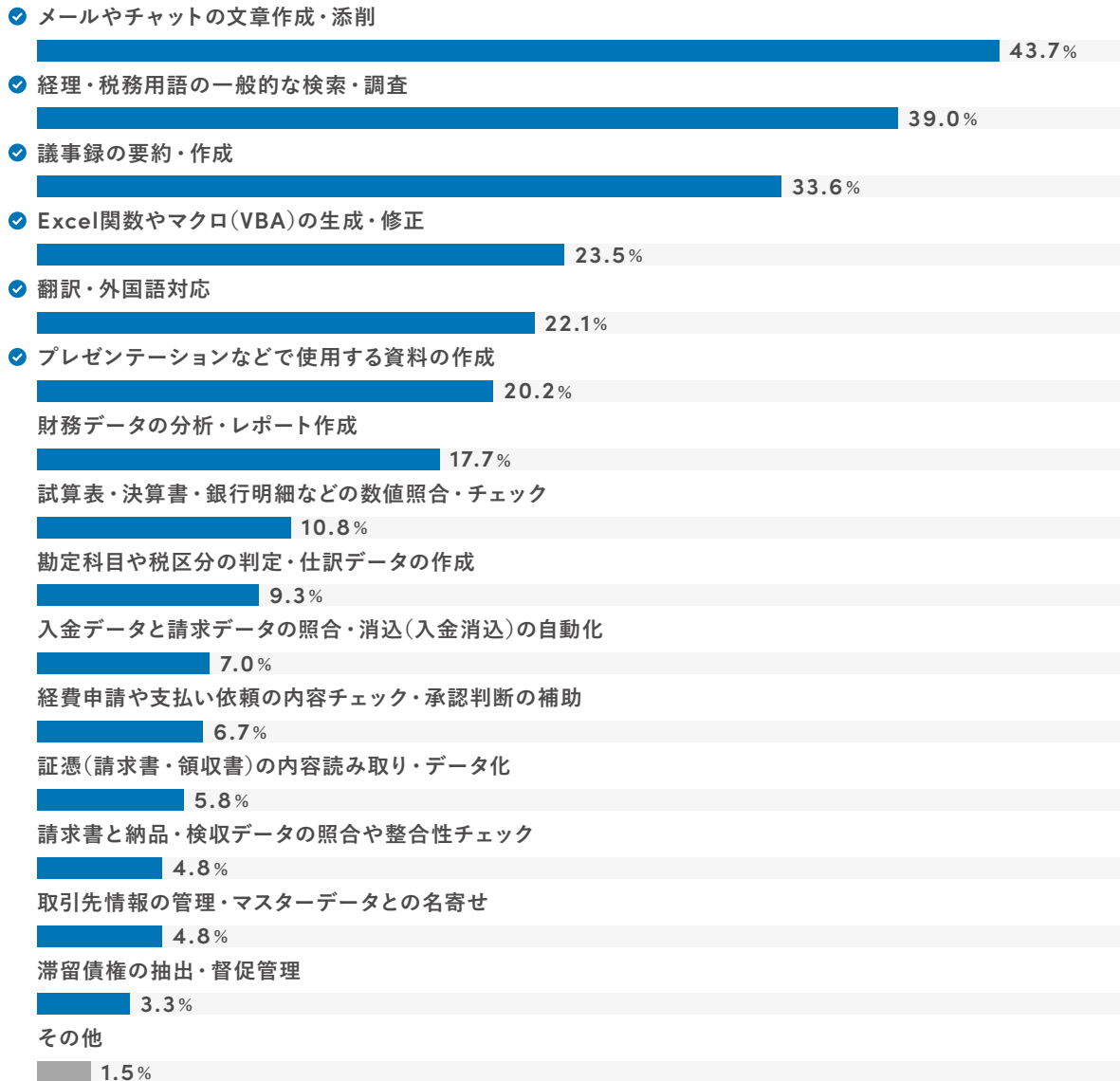


約4割の人が、対話型AIを活用していると回答した。部長クラスと一般社員を比べると、一般社員の方が対話型AIを使用していない割合が約8.8%多くなっている。

## AIを活用している業務の内容

図表 1-5

Q: どのような経理業務で対話型AIを活用していますか。



職種を問わない汎用性の高い業務

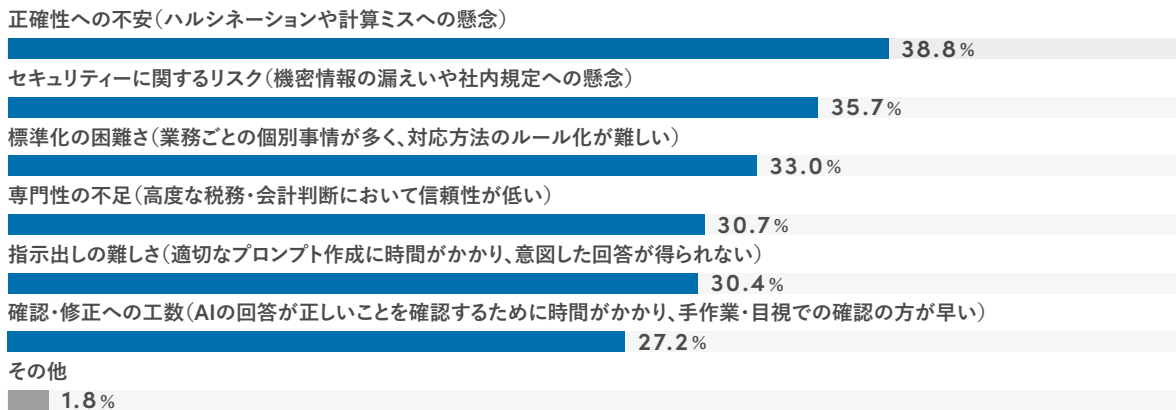
n=840 複数選択可

対話型AIは、「文章の作成・添削」「検索・調査」「議事録の要約・作成」など、職種を問わない汎用性の高い業務で活用されている。一方で、ミスが許されないような経理特有の業務における活用率はおおむね10%を切る。

## 経理業務における 対話型AI活用の実態

図表 1-6

Q：対話型AIを経理業務で活用する上での「壁」は何だと感じますか。

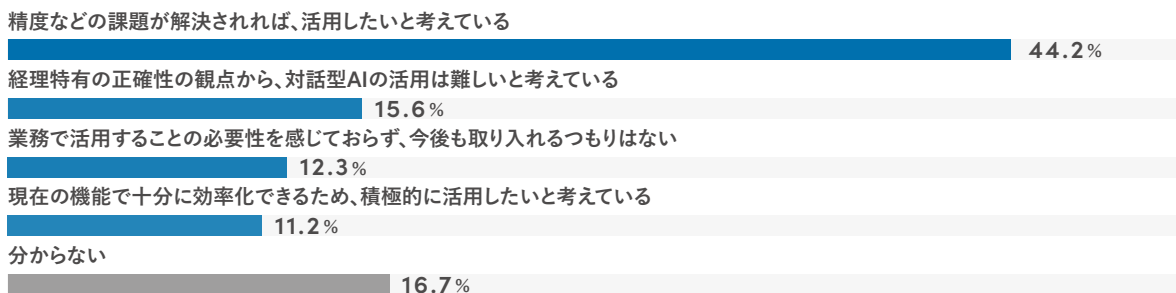


n=2112 複数選択可

対話型AIを経理業務で活用する上での壁は「正確性への不安」だと答えた人が最も多い。それ以外にも、セキュリティリスクやルール化の難しさが壁と捉えられている。

図表 1-7

Q：対話型AIによる経理業務の効率化について、あなたの考えに近いものはどれですか。



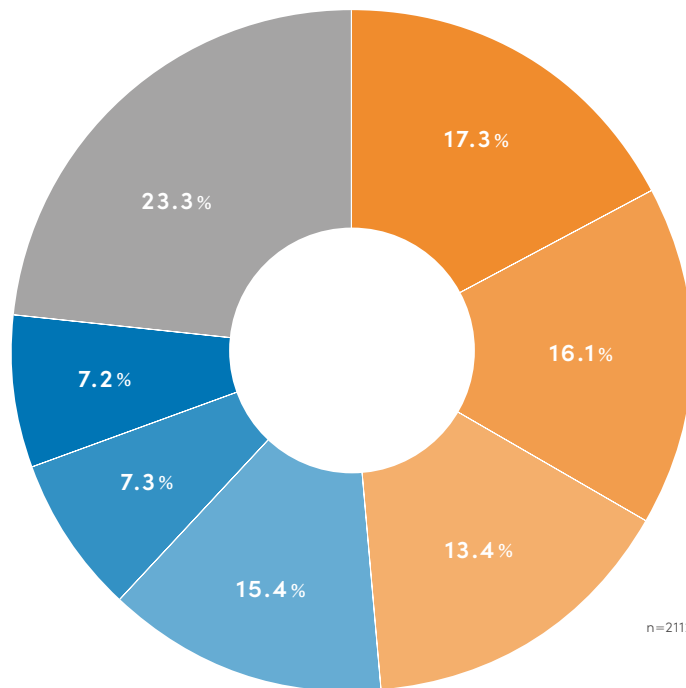
n=2112

精度などの課題が解決されれば、対話型AIを経理業務に活用したいと考えている人は4割を超える。また、16.7%の人が「分からない」と回答しており、対話型AIの有用性について評価を測りかねている層が一定数いることがうかがえる。

## AI技術に対する考え

図表 1-8

Q：対話型AIを含む、AI技術全般の進歩に対して、あなたの考えに近いものを教えてください。



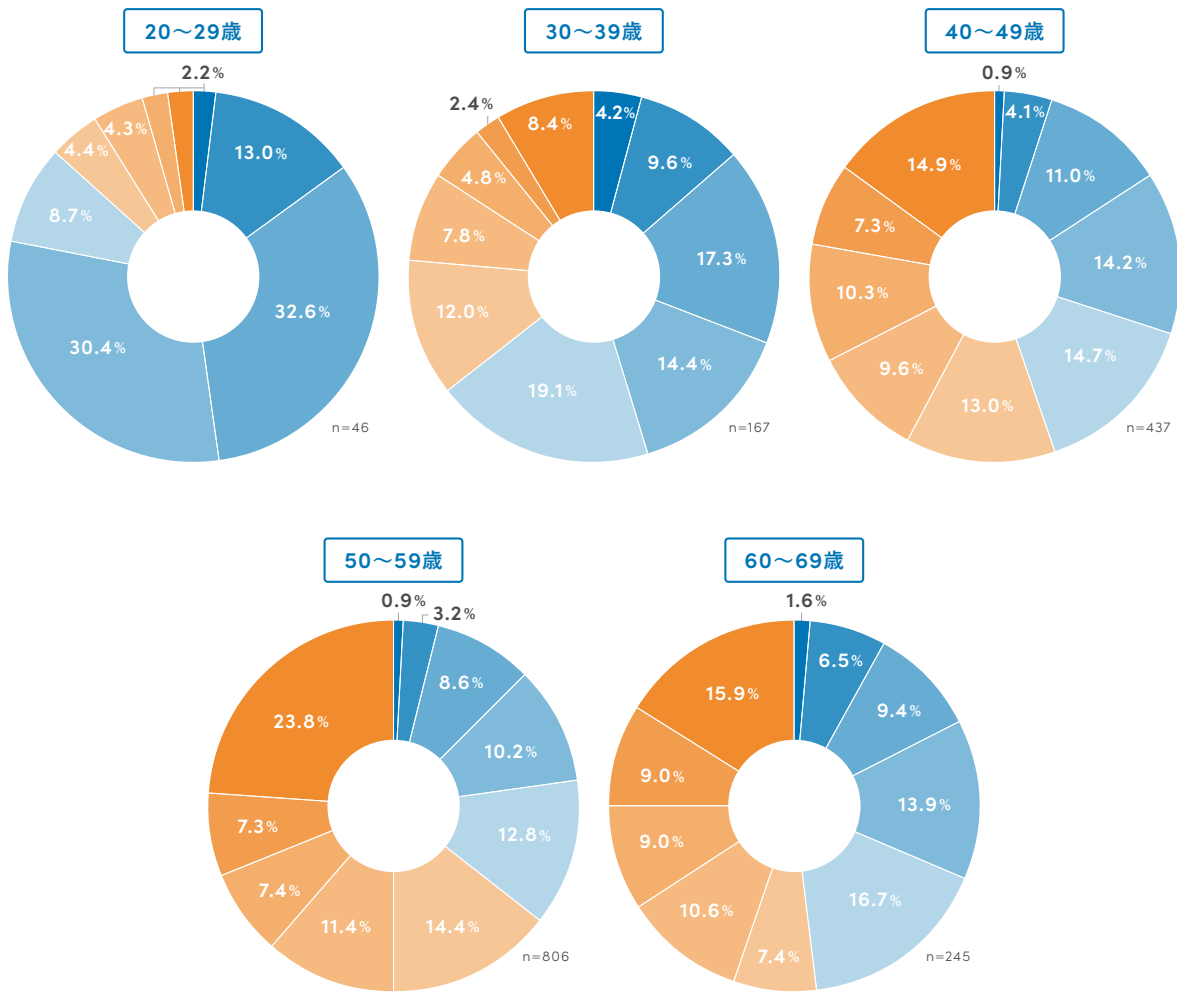
- ルーティン業務が減り、やりがいのある仕事やスキルアップの機会が増えるなど、プラスの変化への期待が大きい
- 技術の進歩により、将来的に経理実務に特化した高度なAIが普及することへの期待が大きい
- 残業削減や生産性向上など、働き方そのものが良くなることへの期待が大きい
- 新しいスキルを身に付けてAIを使いこなせるかどうか、自分の能力・スキルに対する不安が大きい
- AIによって自分の仕事や役割がなくなる・AIに使われる側になるなど、雇用やキャリアの将来に対する不安が大きい
- AI時代において、人間にしかできない価値や創造性を発揮する機会が減り、仕事のやりがいが薄れる不安が大きい
- AIの進化について、まだあまり実感がわかず、期待も不安もない

AI技術の進歩に対しては、まだ実感がない層や前向きな期待を持つ層が比較的多い一方で、AI活用への適応や雇用への不安を感じている層も一定数存在している。

# 年収 (年代別)

図表 1-9

Q：現在の年収を教えてください。



- 200万円未満
- 200～300万円未満
- 300～400万円未満
- 400～500万円未満
- 500～600万円未満
- 600～700万円未満
- 700～800万円未満
- 800～900万円未満
- 900～1000万円未満
- 1000万円以上

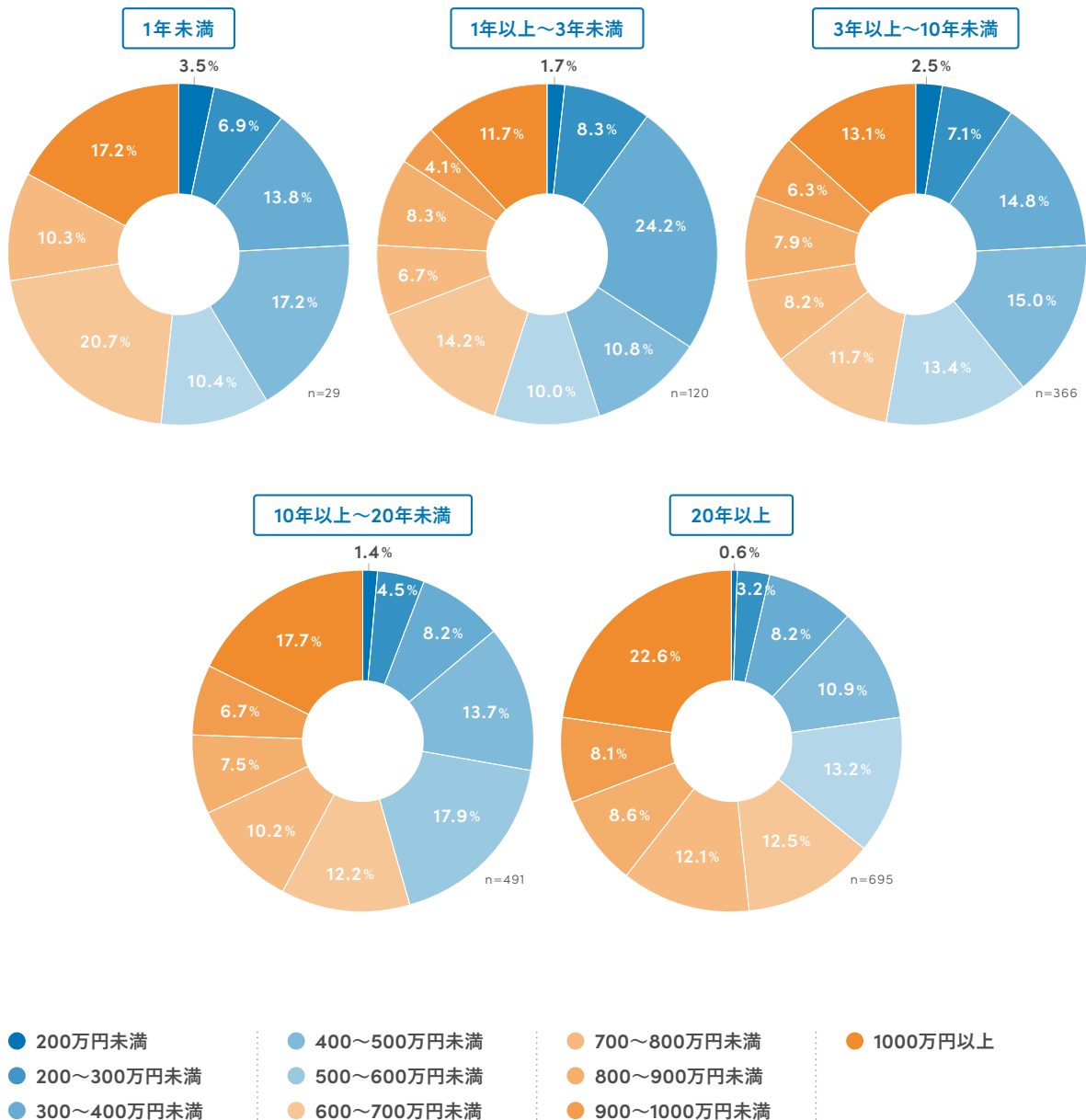
※ 20～29歳の「900～1000万円未満」は0%です。

経理職の年収は20代では400万円未満が中心だが、30代から50代へと、年齢が上がるにつれて上昇している。50代では1000万円以上の割合が最も高くなる。

## 年収（経験年数別）

図表 1-10

Q：現在の年収を教えてください。



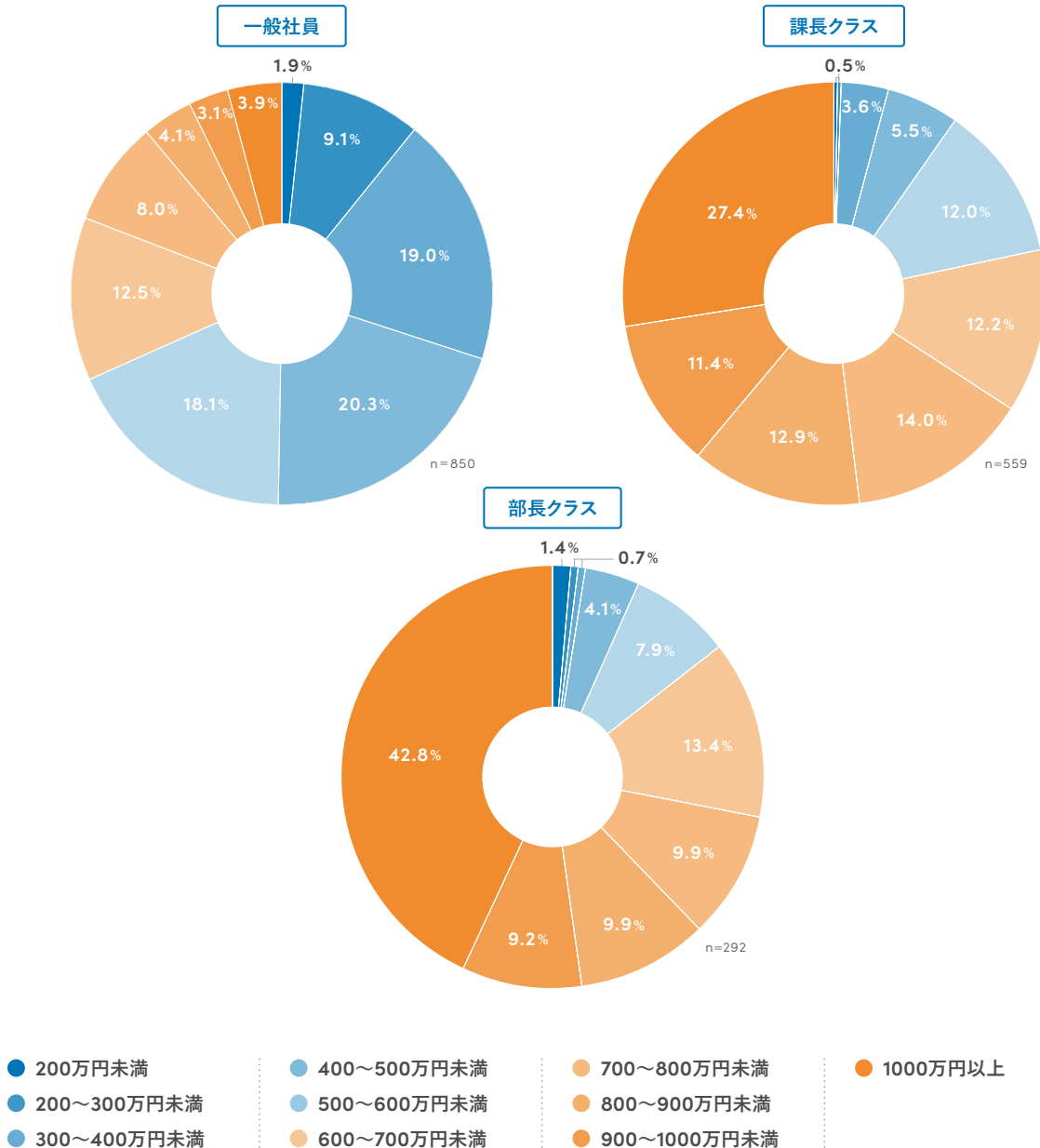
※ 経験年数1年未満の「800～900万円未満」および「900～1000万円未満」は0%です。

全体的な傾向としては、経験年数が増えるにつれて高年収帯の割合は増えているが、各年収帯を個別に見ると必ずしも経験年数に比例して増加していない。

# 年収（役職別）

図表 1-11

Q：現在の年収を教えてください。



一般社員は200万～600万円未満が多いが、課長・部長クラスは600万円以上の割合が増加。さらに、1000万円以上が最多となっている。

## 第 2 章

# 経理の理想と現実

経理部門として付加価値の高い重要な業務

付加価値の高い重要な業務への取り組み

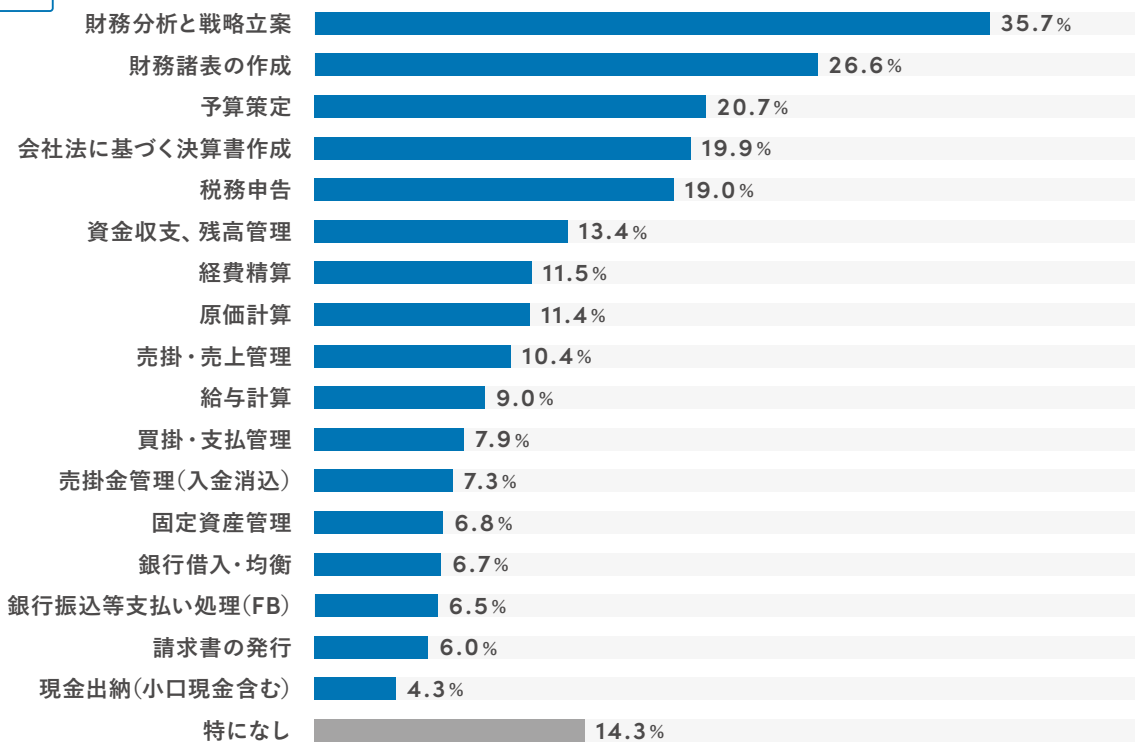
付加価値が高いと考える業務に対する時間の捻出

## 経理部門として 付加価値の高い重要な業務

図表 2-1

Q：経理部門として付加価値の高い重要な業務と考えているものを3つ選択してください。

全体



n=2112 3項目を選択

役職別 (全17項目中の上位3項目) ※「特になし」を除いて算出

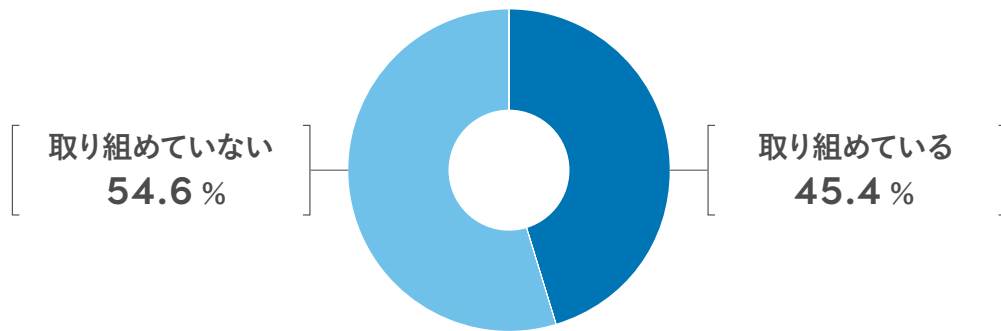
	[ 一般社員 ]	[ 課長クラス ]	[ 部長クラス ]
1位	財務分析と戦略立案 ..... 29.4%	財務分析と戦略立案 ..... 40.5%	財務分析と戦略立案 ..... 44.9%
2位	財務諸表の作成 ..... 24.0%	財務諸表の作成 ..... 29.8%	財務諸表の作成 ..... 28.1%
3位	会社法に基づく決算書作成 ..... 17.2%	予算策定 ..... 24.9%	予算策定 ..... 26.5%
	n=1059	n=672	n=381

役職を問わず、「財務分析と戦略立案」は付加価値が高いと考えられている。一方、一般社員が時間を要している業務（図表1-3）の上位である「経費精算」や「買掛・支払管理」は、それほど付加価値が高いとは捉えられていない。

## 付加価値の高い 重要な業務への取り組み

図表 2-2

Q：経理部門として付加価値の高い重要な業務に、あなたは取り組んでいると思いますか。

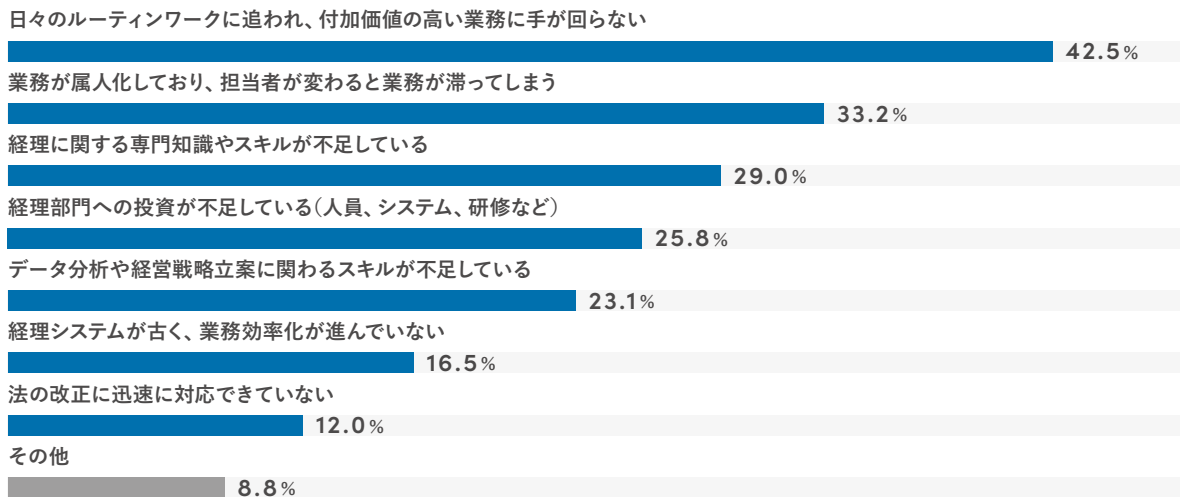


n=2112

半数以上の人が付加価値の高い重要な業務に取り組めていないと感じている。

図表 2-3

Q：取り組めていないと答えた原因は何ですか。



n=1154 複数選択可

付加価値の高い重要な業務に取り組めていない原因として、「日々のルーティンワークに追われているから」と回答する人が最も多い。

# 付加価値が高いと考える業務に対する時間の捻出

図表 2-4

図表1-3「特に時間を要している業務」の順位が、図表2-1「経理部門として付加価値の高い重要な業務」の順位とどのくらい一致しているのか、または乖離<sup>かいり</sup>しているのかを比較した。従業員規模別、および全体の調査結果をそれぞれ掲載する。

■ 時間を要している業務(全17項目)			■ 付加価値が高いと考える業務(全17項目)			※「特になし」を除いた順位			
<b>従業員数 50~199人</b>			時間	付加価値	<b>従業員数 200~499人</b>			時間	付加価値
経費精算	1位	8位	財務諸表の作成	1位	2位	経費精算	2位	8位	
財務諸表の作成	2位	2位	財務分析と戦略立案	3位	1位	買掛・支払管理	3位	13位	
買掛・支払管理	3位	9位	買掛・売上管理	5位	7位	銀行振込等支払い処理(FB)	5位	12位	
売掛・売上管理	4位	10位							
銀行振込等支払い処理(FB)	5位	12位							
		n=639						n=367	
<b>従業員数 500~999人</b>			時間	付加価値	<b>従業員数 1000~2999人</b>			時間	付加価値
経費精算	1位	7位	財務分析と戦略立案	1位	1位	財務分析と戦略立案	1位	1位	
財務諸表の作成	2位	2位	財務諸表の作成	1位	2位	経費精算	3位	8位	
財務分析と戦略立案	3位	1位	経費精算	3位	8位	予算策定	4位	3位	
予算策定	4位	3位	予算策定	4位	3位	会社法に基づく決算書作成	5位	4位	
売掛・売上管理	5位	9位	会社法に基づく決算書作成	5位	4位				
		n=254						n=309	
<b>従業員数 3000人以上</b>			時間	付加価値	<b>全体</b>			時間	付加価値
財務分析と戦略立案	1位	1位	財務諸表の作成	1位	2位	財務諸表の作成	1位	2位	
予算策定	2位	3位	経費精算	2位	7位	経費精算	2位	7位	
財務諸表の作成	2位	2位	財務分析と戦略立案	3位	1位	財務分析と戦略立案	3位	1位	
経費精算	4位	8位	買掛・支払管理	4位	11位	買掛・支払管理	4位	11位	
会社法に基づく決算書作成	5位	4位	予算策定	5位	3位	予算策定	5位	3位	
		n=543						n=2112	

従業員規模が多くなればなるほど、「特に時間を要する業務」と「付加価値が高い重要な業務」の乖離<sup>かいり</sup>が少ない。「財務諸表の作成」と「経費精算」は、従業員規模によらず、時間を要する業務とされている。また、「全体」と「従業員規模別」の結果を比べたところ、その結果は異なっている。

## 刊行に寄せて

本書では、経理部門が本来担うべき役割や意義を見つめ直し、経営環境の変化やデジタル化の進展を背景に、その働き方の実態を調査しました。経理部門の皆さまが、どの業務に時間を割き、何に付加価値を見出しているのかを明らかにしています。

また、近年、対話型AIがさまざまな業務に変化をもたらしています。ミスが許されないような業務を多く担う経理部門において、どのような業務に、どの程度、対話型AIが活用されているのかについても一定の示唆を得ることができました。

経営に積極的に関わるパートナーとして、経理部門はこれからどのような役割を果たしていくのか。業務や働き方はどう変化し、そこにテクノロジーをどう生かしていくのか。本書が、これからの経理部門の在り方を考えるきっかけとなり、新たな気付きや可能性を見いだす一助となれば幸いです。

「経理の働き方白書」編纂委員会

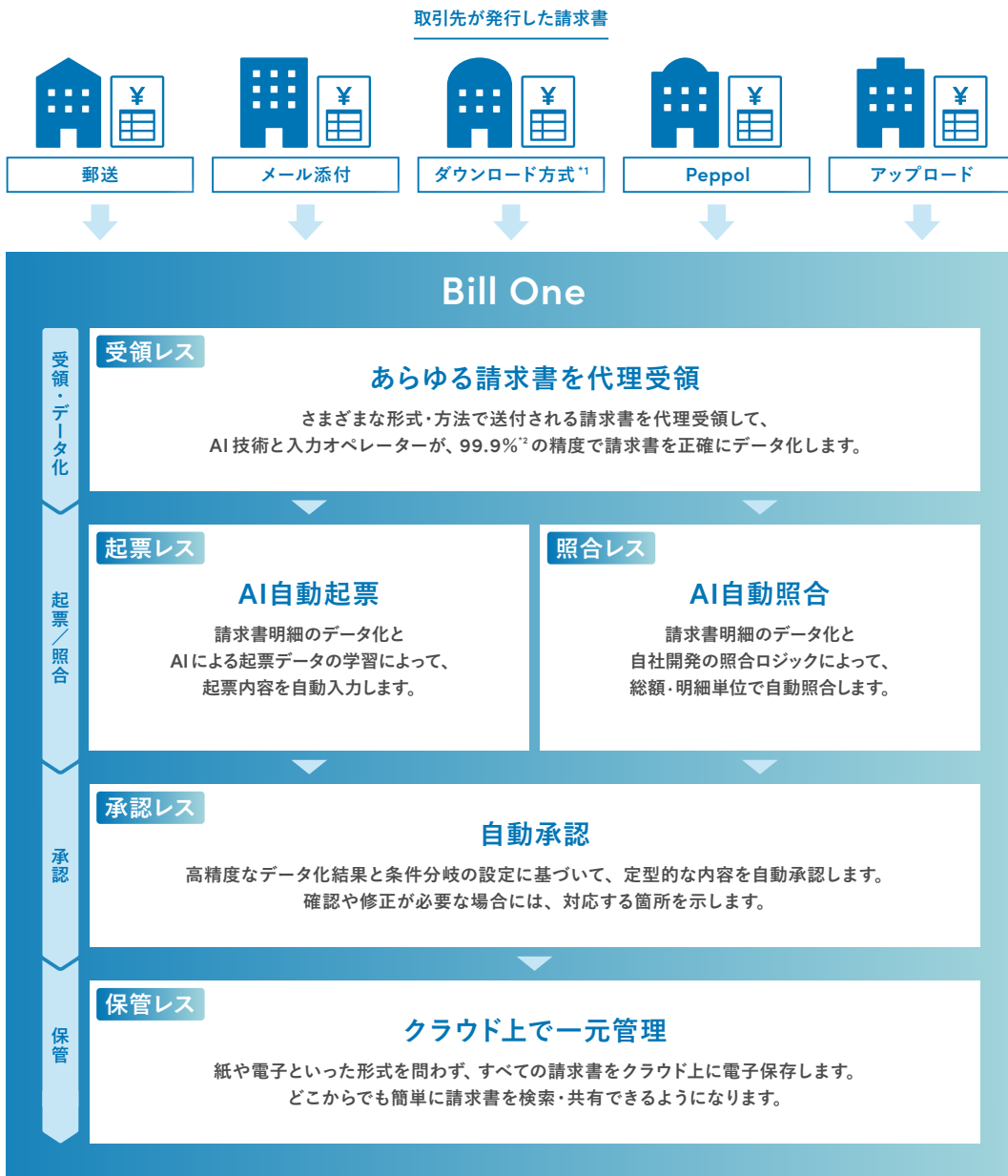
「なくせる」をつくり、全社の働き方を変える

# Bill One 請求書受領

あらゆる請求書を代理受領し、AI技術とテクノロジーで自動化を実現することで、

請求書業務のプロセスに「なくせる」をつくります。

経理部門だけでなく、全社の働き方を変えていく、これまでにないクラウド請求書受領サービスです。



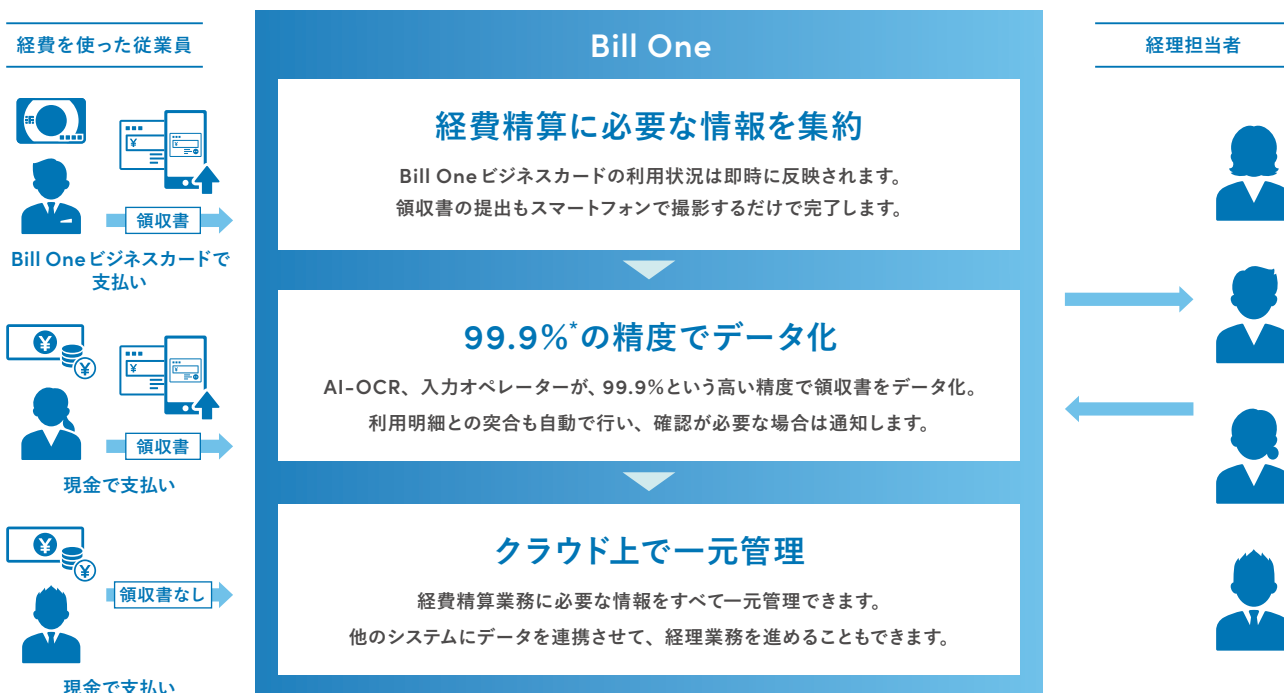
\*1 請求書ダウンロードサイトの仕様や変更、メンテナンスなどにより受領できない場合があります

\*2 Sansan株式会社が規定する条件を満たした場合のデータ化精度

立替経費をなくし、月次決算を加速する

# Bill One 経費

全社員の経費の支払い方法を専用のカードに切り替えることで、  
従業員による経費の立替払いをなくします。  
これまでにない経費精算を実現する、クラウド経費精算サービスです。



\* Sansan 株式会社が規定する条件を満たした場合のデータ化精度

## 3つのメリット



経費の立替払いを  
なくせる



オンラインで  
経費精算を完結できる

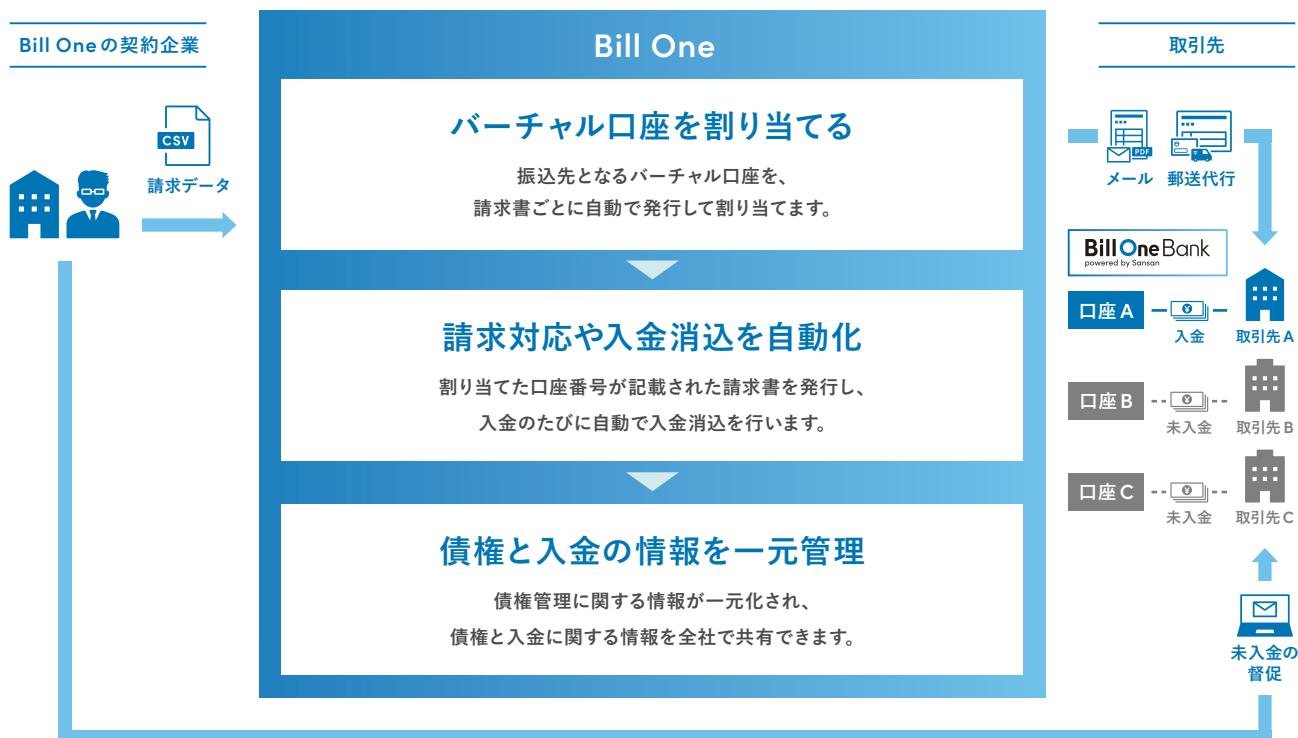


法対応と  
業務効率化を実現

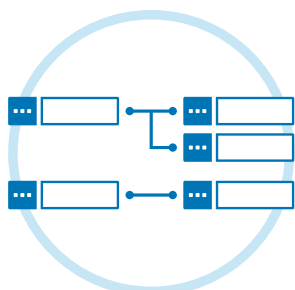
リアルタイム入金消込で、現場を強くする

# Bill One 債権管理

バーチャル口座の割り当てから入金消込まで、全社にまたがる業務の自動化を実現し、  
経理部門だけでなく事業部門を含めた、債権管理に関する全社の体制を強くします。  
入金の状況がリアルタイムで反映される、これまでにないクラウド債権管理サービスです。



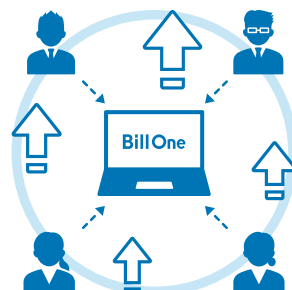
## 3つのメリット



あらゆる入金消込を  
自動化する



債権と入金の情報を  
一元管理できる



社内の連携が  
スムーズになる

# Bill One

powered by Sansan

<https://bill-one.com/>

お問い合わせ先

**bill-one@sansan.com**

 **0800-100-9933**

Sansan株式会社 [本社] 〒150-6228 東京都渋谷区桜丘町1-1 渋谷サクラステージ28F

デモ依頼やお見積もりについては、お気軽にお問い合わせください

**sansan**